

渡 辺 義 介 賞



川崎製鉄株式会社取締役社長

八 木 靖 浩 君

我が国鉄鋼業の進歩発展、特に製鋼技術の発展と鉄鋼生産の近代化

君は、昭和 18 年 9 月東京帝国大学第 1 工学部冶金学科卒業後、川崎重工業株式会社に入社、昭和 25 年川崎製鉄株式会社として分離独立後、千葉製鉄所・製鋼課長、製鋼部副部長、水島製鉄所・製鋼部長、管理部長を経て、昭和 46 年取締役役に就任後、常務取締役、専務取締役、副社長を歴任し、この間、水島製鉄所副所長、ツバロンプロジェクト協力本部長、技術本部長、エンジニアリング事業部長、製鉄技術本部長を担当した。昭和 57 年 6 月取締役社長に就任し、現在に至っている。

この間次に述べるとおり、我国鉄鋼業の進歩、発展に多大の業績を挙げた。

1. 製鋼技術の発展と鉄鋼生産近代化に関する功績

候補者は 30 有余年にわたり、製鋼技術部門の業務に従事し、精力的な実行力とたゆまざる研究心をもつて、製鋼技術の育成・発展に努めるとともに、製鉄所の一貫管理体制の確立に尽力した。主な業績として、次のものが挙げられる。

(1) 大型平炉の操業に関し、大量の酸素を利用することによつて生産能率を飛躍的に増大する製鋼技術の確立に貢献した。

(2) 転炉製鋼法に関し、画期的な多孔ノズルの開発に成功し他に類をみない顕著な生産能率の向上を達成すると共に、鋼質の向上・計算機制御の導入など転炉製鋼技術を大いに進展させた。

(3) 転炉排ガス回収の開発に成功し、エネルギーの節減に多大の貢献をした。

(4) 一貫製鉄所における転炉一連铸システムによる鉄鋼製造技術を確立した。

(5) 製造技術の標準化に努め、各種コンピューター群よりなるオンラインシステムの導入により、年産 1200 万 t 規模の水島製鉄所の管理体制を確立した。

(6) 我が国で初めて純酸素底吹転炉を設置し、操業技術を確立した。

2. 海外経済に対する協力

候補者は豊かな国際感覚を持ち、国際的な友好関係の促進に努めると共に、海外の技術水準の向上に尽力し、日本鉄鋼業の声価を高めた。特に、昭和 49 年以来、ツバロン製鉄所プロジェクトの最高責任者としてその推進に努め、順調な操業を実現し、日本・ブラジル間の友好関係の発展に多大の貢献をした。

3. 更に、技術本部長として、高邁なる識見をもつて、技術力の強化育成に当たると共に、エンジニアリング事業部長として鉄鋼業の多角化を推進した。昭和 57 年社長に就任以降は、特に鉄鋼業の合理化による企業体質の改善に努力すると共に、新事業の展開、経営の多角化などに企業経営者として卓越した指導・統括力を発揮している。

君の活躍は広く鉄鋼業界、産業界の全般にわたり、社団法人日本鉄鋼協会副会長、国際鉄鋼協会理事、日本鉄鋼連盟副会長、同技術政策委員長、経団連評議員として産業経済の発展に大きく貢献した。

これらの功績に対して渡辺義介記念賞、服部賞を受賞するとともに、ブラジル国からは南十字星国家大勲章、フランス国から国家功労賞オフィシェ勲章を授与されている。